

令和6年度 浅口市立金光竹小学校 学校評価書

【浅口市教育目標】	【金光地区学校運営協議会のめざす子ども像】	学級数	6学級	児童数	47人
郷土あさくちを愛し、 心豊かにたくましく、 未来を拓く人づくり	広い視野と思いやりの心をもった、心身ともに元気で明るく前向きな子「自己肯定感・自己効力感」「郷土愛」「あいさつ」	職員数	20人	家庭数	34戸
		学校運営協議会委員			
		【本校教育目標】			
思いやりの心もち、自ら考え、 たくましく生きる児童を育てる					

A成果をあげている<80%以上の達成> Bほぼ成果をあげている<60~80%の達成> Cあまり成果をあげていない<40~60%の達成> D成果をあげていない<40%未満の達成>

	重点目標	単年度目標	具体的計画・達成基準	自己評価	評価
1	主体的に学ぶ態度を育成し、確かな学力の向上を図る	主体的な学びにより、「わかった」「できた」を実感できる。(算数科)	<ul style="list-style-type: none"> <算数科の授業> ◆レディネステストによる実態把握とタイムマネジメント ・具体的なめあての提示(45分で何ができればよいのかを示す) ・考えを交流する場の設定 ・適用題の時間確保 ◆2学期末の児童調査で「わかる」「できる」の肯定的回答95.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究で算数科を取り上げ、教員の授業力向上に取り組んだ。 ・児童の実態把握、具体的なめあての提示、適用題の時間確保については、教員の肯定的回答が100%であった。 ◆「わかる」「できる」 肯定的回答 91.5% 	B
2		タブレットを積極的に活用した授業実践により、児童の主体的学びの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <全ての教科を対象> ◆端末の積極的活用 ・一日一回以上、端末を活用した授業の実施 ◆2学期末の児童、教員調査で「ほぼ毎日活用」と回答80%以上 ◆80%以上A、75%以上B、75%未満C、70%未満D 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報担当者が中心となって、校内研修を実施したり、金光学舎で共通の取組を行ったりするなど、端末活用の促進を図ってきた。 ・年度当初と比較して「毎日の活用」が、児童10.3%→53.2%、教員0%→33.3%と伸びは見られている。 ◆「ほぼ毎日活用」と回答 児童:53.2% 教員:33.3% 	D
3	お互いを認め、思いやる言動ができる子どもを育成する	【自己肯定感、自己効力感】 互いのよさを認め合うことで、自分のよさに気づくことができる	<ul style="list-style-type: none"> ◆カードによるよいこと見つけ ・友だちのよい行いを見つけてカードへ記入 ・カードの掲示と校内放送での紹介 ・縦割り班活動の積極的な実施 ◆2学期末の児童調査で「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答97.9% ◆97.9%A、95.7%以上B、95.7%未満C、90%未満D 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月以降、よいところみつけの取組を全校で継続して取り組んできたが自己肯定感を持つ児童の割合は低下している(95.7%→85.1%)。一方で、第一尺度の児童は増加している(46.8%→53.2%)。 ・友だちのよいところを見つけることができる児童は増加している(85.1%→95.8%) ◆「自分にはよいところがあると思う」 肯定的回答85.1% 	D
4		【あいさつ】 進んで気持ちのよいあいさつをすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ◆月目標での取組 ・取組期間を各学期始めに設定 ・実態の共有と児童の実態に合わせた週目標の設定 ・教職員による積極的な称揚 ・保護者、地域との取組共有(学校便り) ◆2学期末の児童調査で「場に応じたあいさつをすすんでいる(家庭、地域、学校)」肯定的回答90% ◆90%以上A、85%以上B、85%未満C、80%未満D 	<ul style="list-style-type: none"> ・月目標として重点的に取り組むとともに、9月中旬以降(2学期末まで)、月目標の月以外でも高学年が主体的に毎朝あいさつ運動を行った。 ・学校だけでなく、保護者や地域ともあいさつの取組を共有した。(保護者アンケート肯定的回答96.6%) ◆「場に応じたあいさつをすすんでいる(家庭、地域、学校)」 肯定的回答95.7% 	A
5	健康安全教育の充実と体力向上を図る	授業や休み時間の遊びなどを通して、運動する楽しさを実感することができる	<ul style="list-style-type: none"> ◆運動による達成感や楽しさを実感できる場の工夫 ・体育の授業での具体的目標の設定 ・仲間とともに楽しむ運動(遊び)の推進 ◆2学期末の児童調査で「体を動かすことは楽しい」肯定的回答90.0% ◆90%以上A、85%以上B、85%未満C、80%未満D 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同体育等、異学年合同で体育の授業を行うことで、学年を超えた学び合いや思いやりの場をもつことができた。 ・休み時間には、学年を超えた交流遊びで運動を楽しむことができています。 ◆「体を動かすことは楽しい」 肯定的回答91.5% 	A
6	地域の方々が行きたくなる学校、信頼される学校づくりを図る	【郷土愛】 地域の中で学び、地域に愛着をもつことができる	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域とのつながりの中で学ぶ場の設定 ・地域資源を使った生活科、総合的な学習等の充実 ・地域人材を招いての学習活動の充実 ◆2学期末の児童調査で「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」肯定的回答80% ◆80%以上A、75%以上B、75%未満C、70%未満D 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級で地域学習を計画し、積極的に学習を進めるとともに、気持ちのよいあいさつやお礼の手紙により、心のつながりを図ることができている。 ◆「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」 肯定的回答83.0% 	A
7	校務の効率化を一層促進させながら指導の質を高め、金光町の小中一貫教育をより意識して推進する	効率化と教育の質の維持・向上の両面を意識して業務を遂行する	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育活動の充実のための取組 ・効率化を意識した業務遂行 ・学校の課題解決に向けた取組の推進 ◆2学期末の教職員調査で「効率化と、教育の質の維持・向上の両面を意識し、業務を行っている」肯定的回答80.0% ◆80%以上A、75%以上B、75%未満C、70%未満D 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の目的(教職人生の充実、教育の質の維持・向上等)について教職員と共有した。 ・課題解決に向けた取組実施(先生とのお話タイム、校内研究の充実等) ◆「効率化と、教育の質の維持・向上の両面を意識し、業務を行っている」 肯定的回答100% 	A
8	校務の効率化を一層促進させながら指導の質を高め、金光町の小中一貫教育をより意識して推進する	校内の研究授業を金光学舎の他校へ公開し、校内研究に参加してもらうことで、教職員が金光学舎の一体感を感じることができる	<ul style="list-style-type: none"> ◆金光学舎のつながりを深める ・金光学舎内での校内研究、研究授業の共有 ・熟議の会の内容を生かした一貫教育の取組の推進 ◆2学期末の教職員調査で「校内研究に金光学舎の教員が参加することは、金光学舎のつながり意識することにつながった」肯定的回答90.0% ◆90%以上A、85%以上B、85%未満C、80%未満D 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業への他校からの参加者の意見を、研究協議で共有した。 ・金光学舎の3つの柱を意識して、学校経営を行った。 ◆「校内研究に金光学舎の教員が参加することは、金光学舎のつながり意識することにつながった」 肯定的回答87.5% 	B

分析・改善方策

3【自己肯定感・自己効力感】について 児童肯定値 「学校に行くのは楽しい」91.5% 「自分にはよいところがある」85.1% 「人が困っていると進んで助けている」91.5% 「友達の良いところを見つけることができる」95.8%	6月の人權週間で児童会から発表された「ふわふわの実(よいところみつけ)」の取組を、年間の取組として継続している。友達のよさを見つけられる児童は増えたが、自分のよさを意識できる児童は減った。日々の教育活動の中で、教師のプラスの声掛けを増やしていきたい。
4【あいさつ】について 児童肯定値 95.7% 保護者肯定値 96.6% 教職員肯定値 100.0%	通学班の班長が率先してあいさつをしたり、5・6年生が進んであいさつ運動を行ったりするなど、高学年がよい手本となっている。また、運営委員会の児童が、朝のあいさつ運動でよいあいさつができた児童(1～2名)を給食時の放送で理由とともに紹介したり、地域の方や校内作業をされた方から褒めていただいたことを管理職が放送で紹介したりすることで、場に応じてあいさつがよくできていることを伝え、意識付けを図ってきた。今後も、取組の継続や改善を図りながら、あいさつのできる児童を育てていきたい。
6【郷土愛】について 児童肯定値 83.0% 教職員肯定値 93.3%	・総合的な学習「ほたる」「大豆」「福祉」「金光の歴史」「環境学習」 ・生活科「桜島大根」「幼小連携」 ・教科等「俳句」「プレイキン」「しめ縄」「読書に親しむ会」「観劇会」「読み聞かせ」等 「地域について学ぶ」「地域の方から学ぶ」活動を大切にするとともに、振り返りの時間やお礼の手紙、出会ったときのあいさつ等、心のつながりも大切にして、今後も学習活動の充実を図っていきたい。
1・2【主体的な学び】について 児童が端末を活用しながら、主体的に考え表現できるように、引き続き取組を進めていく。「学校情報化認定」の申請に向けて、校内で共通理解しながら取り組むことで、教員の意識向上と端末活用につなげていきたい。	
5【健康安全教育・体力づくり】について 運動が苦手な児童も、達成感を味わえたり、友達からの温かな声掛けで前向きに取り組めたりするなど、技術の向上だけでなく、意欲の向上につながるように、今後も取組を継続していく。	
7・8【教育の質の向上と一貫教育の充実】について 昨年度の学校関係者評価で「効率化が大きく進んでいることは素晴らしい。(中略)削減しすぎてクオリティーが下がらないように工夫して欲しい」というご意見をいただいている。課題を解決するために、年度当初に急速、教育相談を取り入れたり、金光学舎連携のために校内研究の工夫(他校からの参加依頼)をしたりするなど新たな取組も行ってきた。今後も、何が必要かを見極めながら、効率化と教育の充実を考えていきたい。	



学校関係者評価

◆タブレットを毎日活用している割合は低いですが、子どもたちの様子から、活用促進は図れていると感じる。
◆1月に開催された若竹キッズフェスティバルに参加したが、どの子ども堂々と発表ができていて素晴らしかった。タブレットも自信をもって使いこなしていた。
◆「ふわふわの実」で友達の良いところを見つける取組はよい。自分のよさを自分で伝える活動があってもよいのではないか。
◆ブログや学校だよりから、子どもたちのがんばりがよくわかる。子どもたちを賞賛したり励ましたりすることができている。
◆大人が子どもに「あいさつをしよう」と言うだけでなく、大人があいさつをしている姿を子どもに見せないといけないと感じている。



来年度の重点・方針

金光学舎として、小中一貫教育を意識した教育活動を推進する。
1 わかりあう子……互いを認め合う思いやりの心の育成 (1) 友達の良いところを見つける活動を推進することで、互いを認め合う思いやりの心を育成する。 (2) 児童が活躍する場、児童のがんばりを認める場を積極的につくることで、自己肯定感・自己効力感をもてるようにする。
2 かんがえる子……思考力、判断力、豊かな表現力の育成 (1) 基礎学力の定着を図り、主体的に学ぶ態度を育成する授業づくりにより、確かな学力の向上を図る。 (2) タブレットを学習のツールとして活用し、主体的に考え、表現する力を育成する。
3 たすけあう子……思いやりの心や勤労・奉仕の精神の育成 (1) 地域学習に積極的に取り組み、地域への関心を高め、郷土を愛する心を育成する。 (2) 進んであいさつをすることで、人とのつながりを大切にしようとする態度を育成する。 (3) 係活動や委員会活動、清掃活動に主体的に取り組むことで、学校生活をよりよいものにしていくという態度を育成する。
4 けんこうな子……しなやかでたくましい心と体の育成 (1) 体育の授業、業間運動、交流遊び等で意欲的に体を動かすことで、楽しみながら体力向上を図る。 (2) 生活チェックカード等を活用し、家庭と連携しながら基本的な生活習慣の確立を図る。
5 開かれた学校づくり (1) 学校の意図や思いが伝わる情報発信をすることで、信頼される学校づくりに努める。 (2) 学校行事等を広報することで地域の方々に来校していただき、学校と地域のつながりを深める。
6 力を発揮できる教職員組織づくり (1) 日々の取組や研修等により一人一人の資質向上を図るとともに、協働して課題を解決することで組織力の向上を図る。 (2) 業務の効率化と教育の質の維持・向上の両面を意識することで、教育活動の充実を図る。